

平成 26 年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成 27 年 2 月 26 日

研究・研修課題名	院内感染制御における横断的病院医学研究
研究・研修組織名（所属）	感染対策専門部会等
研究・研修責任者名（所属）	熊倉俊一（地域医療教育学講座）
共同研究・研修者名（所属）	西村信弘（薬剤部、感染対策専門部会、感染対策室、ICT）、坂根圭子（感染対策専門部会、感染対策室、ICT）、花田英輔（医療情報部）、栗屋幸一（呼吸器・臨床腫瘍学、感染対策専門部会、感染対策室）、廣瀬昌博（地域医療政策学講座、病院医学教育センター、感染対策専門部会、感染対策室）

目的及び方法、成果の内容

① 目的

医療従事者の vaccine-preventable diseases (VPD) に対する抗体価サーベイランスは、院内感染対策上重要である。本研究では、麻疹、風疹、ムンプス、水痘ウイルス抗体価の検討に引き続いて、医療従事者の B 型肝炎ウイルス (HBV) 抗体価サーベイランスを実施する。また、結核院内感染制御に資する目的で、医療従事者の 2 段階ツベルクリン反応 (ツ反) 検査の成績を年齢、性、職種別に解析するとともに、接触者検診において実施したツ反とクオンティフェロン検査 (QFT) との関連を検討し、これらの検査の結核院内感染制御における妥当性と有用性について検証する。更に、本院電子カルテ上に整備し実施している「症候群サーベイランス」WEB に蓄積されたデータを解析し、大学病院における院内感染症流行の早期検索の有用性について検証する。

② 方法

1) 医療従事者の HBV 抗体価の測定結果を集計し、抗体保有率について解析する。また、年齢、性、職種別における差異についても解析し、更に、陰性者に対するワクチン接種率と陽転化率についても解析を行う。2) 平成 11 年度より実施してきた医療従事者に対する 2 段階ツ反検査の結果を年齢、性、職種別に解析し、医療従事者のツ反の成績 (ベースライン) について検討を行う。また、接触者検診において実施したツ反と QFT 検査との関連及び当該者について数年にわたり実施した胸部レントゲン検査の結果を検討し、院内感染制御におけるツ反と QFT 検査の妥当性と有用性について検討する。3) 電子カルテより自動的に情報の抽出が可能な症候群サーベイランス・システム (個人情報 は抽出しない) を用いて、「発熱」、「咳」、「下痢」等の症状を呈する患者数について、外来・入院別、病棟別及び経時的な解析を行う。

③ 成果

医療従事者の HBV 抗体価及び麻疹、風疹、ムンプス、水痘ウイルス抗体価は継続して測定し、データの蓄積を行った。医療従事者に対する 2 段階ツ反検査の結果は、従来のデータについて解析を行い、今後、継続して解析する予定である。また、症候群サーベイランス・システムも順調に稼働し、データの蓄積を実施中である。今後、院内感染制御の基礎的データとして活用できる。